

ニッポン

ドクター和の



臨終凶巻

テレビドラマ『やすらぎの郷』が終了して寂しいという人が多いようです。私もそのひとりですが、倉本聰作品の中では2008年放送の『風のガーデン』も大好きです。

医療ドラマ数あれど外科や救急医療を舞台にしたものが多い中、『風のガーデン』は緩和ケアというドラマにしばらくのテーマに焦点を当てながら父と息子の葛藤を描いた傑作です。本作で、孤高の在宅医を演じたのが緒形拳さんでした。

このドラマは2008年3月から北海道・富良野で撮影が始まり、すべてを撮り終えたのが同年9月。第1回放送が10月9日。緒

26 緒形拳

長尾和宏（ながお・かずひろ）
医学博士。大阪第二医科大学卒業後、大阪府立第二内科入局。1995年、京都府尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「痛くない死の方はいずれもベストセラ―。関西国際大学客員教授。

形さんはその4日前、10月5日に亡くなりました。71歳でした。急死という報道がありました。が、実は緒形さんは末期の肝臓がんと闘っておられました。亡くなる前日の夕方に腹部の痛みを訴え、自宅から病院に搬送。がんが破裂したのです。ご家族と親友の俳優、津川雅彦さんが見守る中、入院後わずか1日半で旅立ったのです。



緒形さんは2000年頃から肝臓がんは初期にはほとんど症状がなくても、進行とともに、おなかに圧迫感を覚えます。さらに食欲不振、全身倦怠（けんたい）感、体重の減少、微熱に加え、肝機能の低下とともに腹水、黄疸（おうだん）、赤い発疹を中心にくモが足を広げたよ

慢性肝炎を患っていました。その後、肝硬変、肝臓がんと病状が悪い方に進行していきましたが、外科的治療を拒否したそうです。

肝臓がんの原因の約9割はウイルス感染といわれています。C型（HCV）やB型（HBV）ウイルスの持続感染から慢性肝炎を起こし、肝硬変へと進み、肝臓がんになると考えられています。

緒形さんは、肝臓のことは誰にも言つなと周囲に口止めをしていたそうです。8年にもわたる闘病中、一度も長期入院はせずに俳優業に打ち込みました。肝臓がんは初期にはほとんど症状がなくても、進行とともに、おなかに圧迫感を覚えます。さらに食欲不振、全身倦怠（けんたい）感、体重の減少、微熱に加え、肝機能の低下とともに腹水、黄疸（おうだん）、赤い発疹を中心にくモが足を広げたよ

意外に知られていませんが、肝臓と骨は密接な関係にあります。肝硬変の人はたいてい骨粗鬆（こつそしょう）症もあるので、ちょっとした負荷で圧迫骨折を起こしやすいのです。

末期がんの状態を挑んだ『風のガーデン』の撮影中は食事もままならない状態だったそうです。しかし、その辛ささえも武器にして、目が離せないほどの迫真の演技をされたように見えました。

書が趣味だったという緒形さん。葬儀には「不惜身命」の書が貼られていたそうです。法華経が典典のこの言葉の意味は「死をもいとわぬ決意」。最後のドラマにかけた思いが伝わってきます。

うに血管が広がるクモ状血管腫という症状も出てきます。

緒形さんは2007年の秋頃から激しい腰痛に見舞われ、腰椎圧迫骨折と判明し、セメントで骨を固める手術を受けています。

「不惜身命」の書が貼られていたそうです。法華経が典典のこの言葉の意味は「死をもいとわぬ決意」。最後のドラマにかけた思いが伝わってきます。

「不惜身命」貫いた最後の演技